

## 欧州の石油メジャー



中国の政府系ファンドが Total の株式を取得

Total はこれを「歓迎」していますが

Total が 4 月 3 日に、「中国の公的資金が 2007 年末の前から同社の株式を徐々に買い進めている」と発表しましたが、その投資機関の名称の公表は避けました。

### 情報が混乱

フランスでは有力紙が、「それは中国投資有限責任公司(China Investment Corp: CIC)であろう。取得した株式は 5%未満」(4 月 4 日、Le Figaro)と報道しました。

CIC は、2,000 億ドルの資金を運用し、米国の投資大手 Blackstone Group および証券大手 Morgan Stanley の株式を取得したことで話題になっています。

中国の政府系ファンドの代名詞の CIC がフランスに参入していた、という報道に疑いを持つ人はほとんどいなかったと思われます。

ところが同じ 4 日に、FT.com(Financial Times 電子版)が、「この政府系ファンドは国家外国為替管理局(State Administration of Foreign Exchange: SAFE)であり、Total の株式の 1.6%を取得している」と報道しました。

4 月 7 日にフランスで、「Total の株式を保有しているのは、そうであると信じられているファンドではない。Financial Times によれば、CIC ではなくて 1 兆 6000 億ドル以上を運用している SAFE のようである」(4 月 7 日、Les Echos)と報道され、混乱は終わったようです。

ただし、Total は今でも Financial Times の報道を肯定も否定もしていません。

### 不透明だと不安に

中国などいくつかの政府系ファンドは投資の透明性が欠如しています。

(Web 公開)「世界のエネルギーの話題」(2008年4月15日)

以前から「投資に透明性があり、かつフランスの企業が相手国で自由に投資できるのであれば、政府系ファンドのフランスでの投資を歓迎するとしている Sarkozy 大統領ですが」(4月4日、Xinhua Financial Network)、今回は沈黙しています。

米国では、3月5日に開催された下院金融委員会小委員会の政府系ファンドに関する公聴会で、政府系ファンドの透明性の欠如が、「純粋な投資でなく、将来、その国の利益を高めるために利用する、といった政治的意図が込められているのではないかとの疑念を招いている」(3月5日、Reuters News)と指摘されています。

### 透明性が高いのは

産油国ノルウェーの政府系ファンド「政府年金基金」(Statens Pensjonsfond Utland)です。

国営石油会社の利益の「3870億ドルを運用して」(3月31日、Pensions & Investments)います。

「40ある政府系ファンドのなかで最も透明性が高い」(4月4日、Reuters News)と賞賛されている同ファンドは、「マーケットの動きを歪めないように投資先の企業の株式の持ち分を抑えて」(2007年8月31日、FT.com)いるそうです。

同ファンドが保有する石油会社の株式の割合(%)の例を以下に示します。  
最新の数値です。

Royal Dutch Shell	1.31
BP	0.83
Total	0.93
Exxon Mobil	0.29
ConocoPhillips	0.33
Chevron	0.14
Occidental Petroleum	0.34
EnCana	0.39
Gazprom Neft	0.65
Marathon Oil	0.34
国際石油開発帝石ホールディングス	0.4
SK Energy	0.42
CNOOC	0.07
ENI	0.03
石油資源開発	0.87
Rosneft	0.03
新日本石油	0.22

出所:トムソンファイナンシャルが提供する世界最大の投資家情報データベース Thomson ONE

(Web 公開)「世界のエネルギーの話題」(2008 年 4 月 15 日)

## ひとこと

Total は、「中国の政府系ファンドが関心を持ってくれるのは『好ましいこと』である」(4 月 4 日、[The Wall Street Journal Asia](#))とコメントしています。

株式の持分が現状のレベルに留まるのであれば、ということですね。

(YY)

\*\*\*\*\*

本レポートは、世界の 2,100 以上の新聞、3,700 以上の業界誌、500 以上のニュースワイヤー(速報)/プレスリリース等を検索できるファクティバ(ダウ・ジョーンズ社のデータベースサービス)を利用して入手した多数の記事、レポートを比較、分析して執筆しています。(山崎由廣)